

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果は、東京都の平均正答率と比べて、国語で7ポイント、算数で10ポイント、理科で7ポイント高い。多くの児童が基礎・基本の学習内容を身に付けている。回答における無回答率も低く、意欲的に学ぼうとする姿も結果として表れている。  
 ○一方で、学習への意欲が低い児童が、正答率も低い傾向にある。どの児童も取り残すことなく、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わえるようにすることが課題である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○国語科を中心とした「読み解く力」の育成を通して、言語活動を活性化させ、他教科等の学習や日常生活によりよく活用しようとする態度を伸ばしていく必要がある。  
 ○一人一台端末を目的に応じて効果的に活用する力をより向上できるようにする必要がある。  
 ○家庭学習において、自己の課題に応じて主体的に学習に取り組もうとする力を伸ばしていく必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○学習過程におけるINPUT(知や情報を得る)⇒THINK(よく考える)⇒OUTPUT(上手に表現する)を大切にしながら、教科書の内容を読み解く力を身に付けるようにすることで、自力解決・集団解決の力を高める。  
 ○「板橋区授業スタンダード」を基に研究開発した一単位時間の基本スタイル(主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりのモデル)を取り入れた理科・生活科の充実を図る。  
 ○「板橋区授業スタンダードS」を効果的に取り入れた個別最適な学びを推進する。  
 ○自分も相手も納得のある解を見いだしたり、状況に応じてよりよく改善したりするための言語活動を活性化させる対話的な学習を進める。  
 ○一人一台端末を効果的に授業や家庭学習に取り入れ、児童が学習ツールとして適切な活用ができるように支援する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・ふりかえり」等の学習の流れの定着を図る。 ○自己選択・自己決定・自己調整を取り入れた授業づくりを推進していく。(板橋区授業スタンダードS)	○「めあて」「まとめ・ふりかえり」を重視した指導方法を基に、教科書の内容を読み解く力を身に付け、自力解決の力を高める。 ○朝学習等の時間を活用して、読み解く力を支える基盤となる基礎的読解力の育成を計画的に図っていく。	○各教科等で学習した知識等を総合的な学習の時間に生かせるようにする。また、総合的な学習の時間における体験学習等を踏まえた探究学習で得られた学びを各教科等の学習や日常生活に生かせるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○低学年では「町探検」、中学年では「フィールドワーク」を通して、公共施設、史跡と触れ合いながら、加賀藩下屋敷であった地域を愛する心や郷土の発展に貢献しようとする態度を養っていく。 ○高学年では「あいさつ運動」や「グリーン作戦」等の加賀中学校や地域との交流活動を通して、地域貢献に向けて自らの考えを深めていくとともに、これからの板橋を語る児童を育成する。	○本校や地域の特色を生かした学習を通して、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習を推進する。 ○児童自ら課題をもち、調べ、解決する探究スパイラルを生活科や総合的な学習の時間において実施し、学習課題を自分事として解決できる児童を育成する。 ○探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、学んだことを他の学習活動や日常生活に積極的に活用しようとする態度を養う。	○低学年段階からローマ字入力の学習活動に取り組むなど、情報活用スキルの向上を図るための系統的な指導を進めていく。 ○朝学習や家庭学習等の時間に「すららドリル」を活用したドリル学習を計画的に設定し、個別最適な学びの実現を図る。 ○各教科等の対話的な学習活動の一環として「ミライシード」を活用することで、協働的な学びをより効果的に進めていく。 ○学級活動や道徳科の時間を中心に、情報モラル学習を計画的に指導していく。